厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究
分担研究報告書

「大阪母子医療センターにおける長期フォローアップ外来受診状況」

研究分担者　井上　雅美
大阪母子医療センター血液　腫瘍科　主任部長

研究要旨

小児がん経験者を長期にわたり経過をフォローすることは、晩期合併症に対する監視・介入のみならず、本人の成長を見守り、自立を支援するために必要不可欠な取り組みである。大阪母子医療センターでは、血液・腫瘍科と消化器・内分泌科が中心となり、看護師、心理士、ソーシャルワーカーなど他職種が関与する長期フォローアップ外来を開設しており、小児がん経験者をフォローしている。今回、2019 年 4 月から同年 12 月の期間に長期フォローアップ外来を受診した小児がん経験者の実態をまとめた。

A. 研究目的

大阪母子医療センター長期フォローアップ外来受診者の実態を把握し、より良い長期フォローアップを構築するための資料とする。

B. 研究方法

2019 年 4 月から同年 12 月の期間、長期フォローアップ外来受診者の原疾患（小児がんの診断）、フォローアップレベル別の分布をみる。フォローアップレベルは以下のように設定した。

1．外科手術のみ
2．低リスクの化学療法を受けた患者
3．高リスクの化学療法を受けた患者
4．20Gy 以上放射線照射を受けた患者
　同種造血細胞移植を受けた患者
5A．臓器機能障害をもつ患者
5B．臓器特異的な外科的治療後のフォローが必要な患者

（倫理面への配慮）
後方視的に診療録から必要なデータを抽出する。個人を特定可能な情報は取り扱わない。

C. 研究結果

長期フォローアップ外来を受診した患者数は実数 214 名であった（のべ患者数は 257 名）。

疾患内訳：

白血病については、急性リンパ性白血病 62 名、急性骨髄性白血病 23 名その他の白血病 5 名で、白血病症例は計 90 名（総受診者実数 214 名の 42%）であった。

固形腫瘍については、網膜芽細胞腫

26 名、神経芽腫 21 名、肝芽腫 9 名など総数は 77 名（36%）であった。

白血病、固形腫瘍以外の小児がん類縁疾患は多岐にわたっており、47 名（22%）であった。

フォローアップレベル：

レベル 1:1 名、レベル 2：13 名、レベル 3：64 名、レベル 4：44 名、レベル 5A：63 名、レベル 5B：29 名であった。低身長、性線機能不全、高脂血症、甲状腺機能低下症、義眼、尿崩症など治療介入が必要なレベル 5A，5B の症例は 92 名（43%）であった。

D. 考察

長期フォローアップ外来受診者の原疾患（小児がん）の内訳は小児がん発症時の診断内訳と大きく偏りがないと考えられる。多岐にわたる晩期合併症に対して治療介入を必要とする受診者が全体の半数近くを占めていることから、長期フォローアップ外来が担うべき役割の重要性を再認識させられた。

多岐にわたる晩期合併症に適切に対応するためには、複数の専門診療科との協力が不可欠である。特に成人診療科との連携が重要と考えられる。

E. 結論

長期フォローアップ外来は小児がん経験者を支えるための取り組みとして重要であり、小児がん医療において重要な役割を担っている。多職種・多診療科（成人診療科）と連携する長期フォローアップ外来を組織することが重要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし